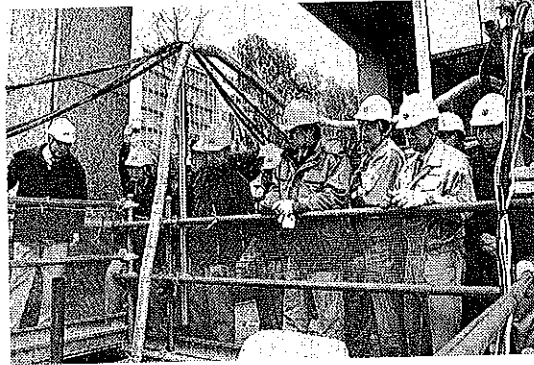


免震の最新工法学ぶ

道庁耐震改修現場を見学

札幌建協

札幌建設業協会は29日、中央区の道庁本庁舎で施工されている耐震改修現場を見学した。会員企業の建築技術者ら36人が参加し、行政事務を中断することなく、綿密な工程管理で地下に免震装置



置を設置する最新工法の知識を身に付けた。

同建協の建築委員会(阿部芳昭委員長)と労務委員会(野村幹夫委員長)の共催。阿部委員長は「普段は見ることができない耐震改修現場を回

免震装置を設置する地下をのぞき込む参加者

り、技術の向上を図りたい」と期待を寄せた。今回の見学会は従来の2倍に上る希望者があった。

道庁耐震改修は、設計施工一括で竹中工務店と丸彦渡辺建設、田中組、ドーコンのコンソーシアムが進めている。2013年4月に着工し、16年1月に完成する見込み。本庁舎地下1、2階にある機械室に免震装置92基とオイルダンパー12基を設置する。

現場では施工共同体の鹿野護所長と西條康史副所長が案内役となり、職員の仕事作業や庁舎内の電気、空調、給排水を止

めることがないよう、設備の移動と更新を繰り返しながら設置工事を進めるといふ施工計画を解説。免震装置は6月から取り付けが始まり、12基の設置を終えた。

現場では機械や配管などが複雑に入り組むため、構造物の切り替えに当たり3D-CADで画像データを処理した施工図を作り上げた。西條副所長は「耐震性能向上とともに機械設備のコンパクト化と省エネ化が図られ、空きスペースの出現で防災機能も強化される」と工事の効果を強調した。参加者は、大掛かりな工事を効率的に進める現場の工程管理に感心していた。

建築委・労務委が合同現場見学会

施工状況や安全体制確認

36人が道庁耐震改修現場視察

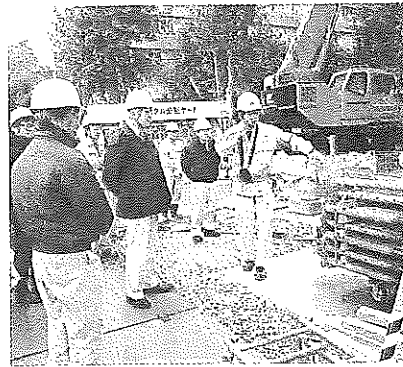
札建協

一般社団法人札幌建設業協会(岩田圭剛会長)は二十九日、建築委員会(阿部芳昭委員長)と労務委員会(野村幹夫委員長)の合同現場見学会・安全パトロールを実施した。委員長をはじめとする両委員会の委員や会員企業の技術職員ら三十六人が参加。道庁本庁舎耐震改修工事の現場を訪れ、施工状況を視察するとともに、安全管理体制も確認した(写真)。

現場は、道建設部発注の道庁本庁舎耐震改修工事。地下機械室階における中間層免震改修を採用し、免震

装置・フレッド工法とローリング施工により設備更新を連動させた免震化を進めている。

設計・監理を含むコンソーシアムのうち、施工は竹中工務店・丸彦渡辺建設・田中組が担当。昨年四月に着工、二十八年一月末の完了を予定している。この日の見学会は、十八人ずつ二班に分かれて実施。冒頭、阿部委員長があ



が工事概要や現在の進捗状況、この日の作業内容などを説明。同工事で採用している免震工法についての紹介も行った。

そのあと現場の様子を視察。西條副所長から説明を受けながら、施工状況や安全管理体制に目をこらしていた。

一班目の終了後には、野村委員長を含む二班目が現場を視察し、施工状況などを確認した。

いさつし、「職員が執務中での施工は、新築工事に比べ様々な制約がある。創意工夫などについて学んでもらえたら」と述べ、技術力向上に期待を寄せた。続いて、西條泰史副所長